

令和7年度第11次千葉県職業能力開発推進検討会 議事録

1 日 時 令和7年10月21日（火）9：55～11：15

2 場 所 千葉県教育会館 本館5階会議室

3 出席委員（敬称略）

学識経験者	千葉職業能力開発短期大学校	校 長 紀 高志
事業主代表	千葉県職業能力開発協会	会 長 赤星 健二
	千葉県中小企業団体中央会	副会長 熊谷 正喜
労働者代表	日本労働組合総連合会千葉県連合会	事務局長 中島 正敏
行政関係者	千葉労働局職業安定部訓練課	課 長 菅野 恵

以上 出席委員5名

4 会議次第

- 1 あいさつ（戸崎産業人材課長）
- 2 委員紹介
- 3 副会長指名
- 4 議題
第11次千葉県職業能力開発計画の令和6年度実績等について
- 5 その他

5 議題に係る検討の概要

○事務局

以下について、各資料を用いて説明。

- ・第11次千葉県職業能力開発計画〔概要〕（資料1－1）
- ・第11次千葉県職業能力開発計画事業の進捗管理表（資料1－2）
- ・物流関係企業へのヒアリング調査、求職者のニーズ調査結果について（資料1－3）
- ・リスキリングへの支援について（資料1－4）
- ・テクノスクールの再編・整備について（資料1－5）
- ・第11次千葉県職業能力開発計画の目標に対する取組について（資料2）

○熊谷委員

・物流関係企業のヒアリング結果について、物流業界は人手不足のため、テクノスクール修了生である必要はないのではないか。また、DX人材を必要としているのは物流業界に限らないのではないか。

・入校者を増やすには、ターゲットを明確化すべき。特に今年度入校した学生はどのような理由でテクノスクールを選択したのか。校名変更（高等技術専門校→テクノスクール）があったから入ってきたのか知りたい。

○事務局

- ・ヒアリング結果から、物流業界では物流に特化した技能というよりも、一般的な仕事への意欲や IT の知識が求められていることが判明した。
- ・入校者増加への施策として、テクノスクール修了後の進路イメージを具体化する必要がある。オープンキャンパスの実施、工業高校連携パンフレット配布、ターゲティング広告の強化を進める。今年度のターゲティング広告では、資格取得や就職情報を検索する保護者特に女性が多いことが判明しており、今後さらに検証・改善を図る。
- ・入校のきっかけは、高校の先生や家族から紹介された方が多い。最近ではホームページを見て入校する方が増えてきているため、今後も SNS 広告に力を入れていきたい。
- ・校名変更（令和 6 年実施）の影響については、まだ把握できていない。

○熊谷委員

- ・大学との授業料の違いを広告で伝えた際、母親から反応があったということか。

○事務局

- ・本人より母親の方からより反応があった。学費の安さよりも、資格取得や就職に関する情報への関心が高い。

○赤星委員

- ・時代の変化に対応することが重要。テクノスクールが必要かどうかさえ問われている時代かもしれない。現状、高校生が直接企業に入っており、テクノスクールを志望するケースは少ないのではないか。

○事務局

- ・普通課程入校者は今年度 4 月で 102 名と、高 2 と中 2 で 10 万部パンフレットを配っていることと比べると進路としては少数であり、時代の変化への対応は課題として認識している。

○中島委員

- ・最近の高校生は大学進学志向が強い。テクノスクールを修了すれば、憧れの職業に付いたり、魅力的な処遇を受けられるなど、明るい将来を描けるようイメージを展開していくことが重要である。

○菅野委員

- ・若者が自身の将来像を明確に描ける環境を提供する必要がある。特に高校生の場合、保護者の意向が影響することが多い。離職者向けでは 3 か月程度の IT の訓練では実際に IT 関係の職に就きにくい現状がある。若者向けには、資格取得や就職先の具体的な道筋を示すことが重要である。

○熊谷委員

- ・製造業自体に魅力が欠けている可能性がある。

○事務局

- ・若者の将来イメージが付きにくいという御意見をいただいたが、パンフレットの修了生インタビューを活用し、10 年後 20 年後に安定した職業に従事している姿を PR するなどしている。今後も動画など PR 方法を検討していきたい。

○紀会長

- ・製造業には魅力があるが、外部に伝わりにくい。高校生に製造現場を直接見せる取り組みが必要。ポリテクカレッジでは学校の楽しさを伝える工夫もしている。高校のレベル・ターゲットに合わせた高校生の目線の情報提供が求められる。
- ・他県では技能検定や若年者ものづくり競技会で優秀な成績を収めた学生を表彰している。千葉県でも同様の表彰制度の導入を検討してほしい。また、ポリテックビジョンの高校生向け集客についても一緒に検討をお願いしたい。

○事務局

- ・他県の技能検定優秀者の表彰については確認したい。

○赤星委員

- ・世の中の変化にキャッチアップしていく必要がある。企業経営者へのヒアリング等を通じて現場の実態を把握する必要がある。必要の無くなったものは変化していく必要があり、人はそれぞれの人が活躍できる場にいる必要がある。